

# 【令和8年度 須坂市立相森中学校グランドデザイン】



## ◇教育目標「優しさと輝きのある中学生」

【最上位目標】(めざす生徒の姿)

### 「ありがとう」が言える人、自分で動ける人

○自分のよさや可能性に気づき、目標に向かって心身を鍛える生徒

○まわりの人やものを大切に、温かな関わりを持とうとする生徒

○友や地域の人たちとともに協働して課題を解決しようとする生徒

#### 【学力の向上】

##### —授業の充実・学力の保障・小中の連携—

- 1 問いをもち、自分の考えを見出す授業
  - ・授業の中に、思考・判断・表現する場面を意図的に取り入れる
  - ・対話を通した「学び楽しさ」の時間を確保
  - ・授業評価アンケートの実施(学期ごと)→結果をいかしたPDCAサイクルの構築
  - ・目的に応じ、デジタル教科書、ICT端末を積極的に活用する授業づくり
- 2 自分なりの学習の仕方を学ぶ(自主学習の場の設定)
  - ・自分の学びを振り返る場の設定
  - ・水曜日放課後や夏期休業中の壮心ひろば
  - ・定期テスト前・後に学習相談の時間を設定
- 3 「ふるさと須坂」を意識したESDの推進
- 4 小中連携による学力の定着
  - ・校区内の小学校と連携した学力の課題と対策→共通の取組を推進する

#### 【望ましい人間関係づくり】

##### —道徳、人権教育、特別支援教育、命の教育の充実—

- 1 生徒一人ひとりの居場所づくり(学びのルートマップ整備)
  - ・生徒の思いや悩みに対応する相談体制の充実
  - ・生徒の状況に応じた学びの場の確保(学びのステーションルーム)
  - ・Q-Uや学校アンケートを活用した、いじめや不登校の未然予防的指導の充実
- 2 特別支援教育の充実
  - ・特別支援学級生徒や通常学級で支援を要する生徒に配慮した指導の充実
  - ・多様性に応じた学習環境や授業づくり
- 3 道徳教育、人権教育の日常的な実践
  - ・道徳教育や人権同和教育を中心とした人権感覚、優しさ、思いやりの育成、相手意識の醸成
  - ・進んで関わろうとするボランティア活動の推進
- 4 「いのちの教育」の推進
  - ・すべての教科や活動において命の大切さを意識した学習展開を実践、いのちを尊重し合える心を育成
  - ・「いのち」をいただく、食育教育の充実
- 5 創立80周年からつながりを学ぶ

#### 【自主的・主体的な姿】

##### —生徒会活動と伝統的な行事の充実—

- 1 生徒会活動
  - ・スローガン『百折不撓』のもと①失敗してもあきらめずに挑戦②身近なことからSDGsを意識して実行③情報・考えを共有し全校生徒が取り組む。この3点を意識して、生徒一人ひとりが粘り強く活動していく。
- 2 学級活動の充実
  - ・よりよい学校生活に向けて、一人ひとりに活躍の場がある学級活動の展開
- 3 80周年記念事業(運動会・音楽会)
  - ・相森中伝統行事「運動会」、「音楽会」を、生徒の自主性を生かし、取り組む過程を最も重視し、成就感の得られるものにする
- 4 情報機器の正しい利用
  - ・適切で正しい使用方法について、家庭とも連携してルールを確認
  - ・定期的な情報リテラシー教育の実施

<すべての教育活動のベースとなるもの>

- ◎1人ひとりの生徒を全職員でみる
- ◎生徒が失敗から学び、生徒自身で乗り越えられる支援を考える(教えすぎない、手をかけすぎない)

【経営の理念】**対話する学校**(聴くことから)

◎生徒理解(行動の裏にある背景までの理解を深める)

◎生徒が失敗から学び、生徒自身で乗り越えられる支援を考える(教えすぎない、手をかけすぎない)